

スーパーFJ もてぎチャンピオンカップレース 第1戦

延期していた もてぎチャンピオンカップレース開幕戦！！

もてぎチャンピオンカップレースの第一戦は3月11日に予定されていたが、震災の影響で延期となり、6月26日に開催されることとなった。そのため、以前の走行から約三ヶ月以来の走行となる。また、今回は去年のもてぎ戦で乗っていた車両がエンジンオーバーホールの都合上で参戦できないため、RD10Vでの参戦となる。約三ヶ月のブランクと走行経験の乏しいマシンという要素があるため、まずは以前の走行感覚をいち早く取り戻すことと、車両の特徴をつかむ事が今回のレースでの結果を左右すると考え、その二つに重点を置き練習走行を行った。

6月24日 フリー走行 4本 ドライ

久しぶりの走行ではあるが、以前の走行感覚は特に問題はなく、すぐに取り戻せたと感じた。また、不慣れたマシンであるという点ではあるが、以前まで乗っていたKK-Sと比較すると加速方向の力に対してはマシンが安定するフィーリングで、多少のラフな操作でもある程度の許容性があるため、この特性を生かすということを考えて走行することとした。しかし、操作性については問題ないが、マシンが代わったことによる、シフトフィーリングの大幅な変化に対しての相違感があり、練習走行ではシフトミスは何度も繰り返してしまった。これに対しては、右方向のGが掛かっている際に発生しやすいので、右旋回時のシフト操作にかかる時間を少し多めにおく事によって対応した。この日は気温が最大36℃となる猛暑だったため、すべてのマシンのタイムは伸びずにいた。

6月25日 フリー走行 3本 (ドライ1本 ウェット2本)

この日の1本目の走行は前日より気温が下がり、タイムを縮めやすくなっていた。しかし、前日のタイムを上回ることができなかった。2本目の走行からはウェットとなったので、レインタイヤでの走行となる。ウェットでの走行は過去に数回しか経験がなく、走行できる機会も天候に左右されてしまうので、貴重な練習期間となる。もてぎの路面は地震の補修工事によって、改修していない箇所ではウェットの際は格段にグリップが落ちてしまう。練習中はそれを念頭において走行していたが、最後の走行時に130Rでスピンしてコースアウトしてしまう。ウェットでのトップとのタイム差はドライの時よりも大きく、課題が多く残る練習走行となった。

6月26日 予選 セミウェット

予選は直前まで小雨が降り、タイヤ選択には難しいコンディションとなった。ユーズドのレインタイヤでのアタックとなったが、タイヤが温まるまで時間が掛かったため、7週目でベストタイムを記録して予選は14台中11位となった。

上位は予選中にスリックタイヤに交換しての走行で、トップとのタイム差は約7秒となった。

決勝 ドライ

決勝も直前まで小雨が降ったが、全車両スリックタイヤでの走行となる。

スタートはホイールスピンのしすぎで出遅れる。その後1-2コーナーで前車に追いつきスリックを使い3-4コーナー進入で3台並びながらインを刺そうとするが、そのままオーバーランで最下位となる。その後1台を抜いたが、次は3-4コーナーでスピンしてしまう。その少し前にスピンしてポジションを落としていた清水選手の前に復帰した。その後はそのまま2台で走行し、1台を抜いたが、最終ラップでシフトミスした際に清水選手に抜かれる。決勝正式結果は13台中11位となった。

総評

今回のレースではタイム以前の問題が浮き彫りとなってしまいう結果となった。少し焦りがあるとミスをして、それによりまた焦ることでミスを繰り返してしまうという精神的な弱点が大きなポジションダウンの要因となった。一度のミスを広げてしまう弱さがある限り上位は臨めないため、今後はタイムアップと精神面の改善が課題となる。

このレースでの悔しさをしっかりと噛み締めて次のレースではより上位でフィニッシュします。

中村監督コメント

本日は全くと言っていい程、歯車がかみ合いませんでしたがもてぎ第1戦として苦情をのみ次戦は入賞に向け努力いたします。